



1

マナーの態度

社会人としての自覚

1 学ぶものとしての自覚

(1) 教育の義務と権利

憲法に定められた国民の義務は、『納税』『勤労』そして『教育』です。

「学校の勉強は楽しいですか」という質問に、自信をもって「YES」と答えられる人は少ないかも知れません。早く社会に出て働きたいという人も多いでしょう。しかし、学ぶことは、社会の一員としての知識を習得するために課せられた『義務』であるとともに、あなた自身が豊かな人生を歩むために与えられた『権利』でもあるのです。

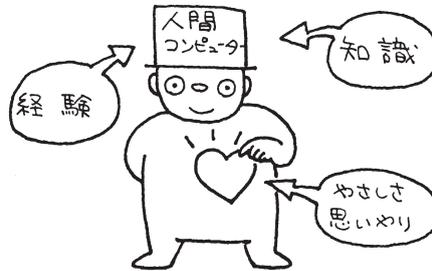
(2) 学ぶことの意味とは

コンピュータのハードとソフトを、人間のからだにあてはめてみましょう。コンピュータはソフトがなければ役に立ちません。OS（オペレーティングシステム）とよばれる基本ソフトを入れることではじめて、コンピュータの基本性能を動かすことが可能になります。さらに高度な内容についてコンピュータ処理する場合には、専用のソフトが必要です。人間にも同じことがいえるのではないのでしょうか。

人間のOSは「立つ・座る・歩く」「見る・聞く・話す」といった基本的な動きの部分でしょう。社会生活の上では「集団での規則やルール」「互いの関係をよくするためのマナー」なども、基本ソフトの部分といえます。

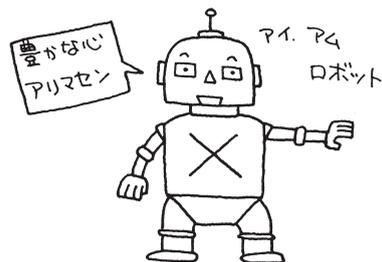
これらに対して、日常生活を営む上で必要な「知識」や「経験」が、コンピュータでいうところの専用ソフトです。知識や経験を積み重ねることで、より高度な力を備えることができます。これを蓄えるのが教育です。

学ぶことは、自分が将来の選択をしていくときに必要な『価値基準』を^{つちか}培うことです。



もちろん、人間生活と、コンピュータがデータを蓄積して学習機能を持つことをまったく同じように考えることはできません。もっとも大きな違いは、心をもっていること。社会人として出発するまでに、学校という集団の中で、社会の一員としての豊かな心を育みます。

人はひとりきりでは生きていくことができません。相手に対するやさしさや思いやりの心がなければ、人間はロボットと同じです。



学生時代を『モラトリアム』といいます。これは、社会の一員としての義務と責任を担う社会人・企業人とは違い、さまざまな点で優遇措置を受けている期間のことをさします。国を運営する財源となる税金を免除され、学生のための割引制度・サービスも多く受けられます。人が支えあって生きる世の中で、学生は支えられている立場といえます。社会に出るといことは、支えられる立場から支える立場に代わるということで、その責任も重くなるのです。

2 学ぶものとしての立場

(1) 学校という組織の一員として

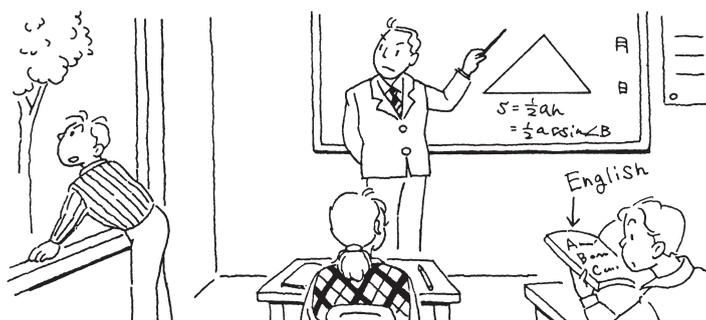
みなさんは、一人の尊重されるべき個人として生きているとともに、学校という集団の一員として毎日を過ごしています。組織を構成するひとりである以上、集団のルールに反して自分勝手に行動することは許されません。

組織に定められた規則（学校であれば学則）やルールにのっとって、規律を乱さず、秩序を守るよう心がける必要があります。

(2) 組織の中の自分

学校という組織は、『学生が学ぶ場所の提供』『学生が欲している知識の提供』をするとともに、社会の一員としての秩序とルールを学ぶ場でもあります。先ほどふれた通り、学ぶことは『権利』ですから、ひとりひとりの権利が尊重されるように、少しでもよい環境で、互いが精力的に学べるようにする必要があります。そのためには、さまざまな決まりごとが必要です。たとえば、授業開始時刻・時間割・授業カリキュラムなどは、学生個人が勝手に決められるわけではありません。授業に飽きたからと勝手な時間に休憩したり、英語がやりたくなかったからといって、数学の授業中にひとりだけ英語の教科書をひろげることはできません。

社会に出て企業の一員となったときにも同じことがいえます。始業時間・終業時間・職場のさまざまな規則やルールは、必要なものなのです。自分勝手な時間の使い方をしてはいませんか。集団のルールを無視して、自分のルールで行動してはいませんか。振り返ってみましょう。



3 集団のルール

(1) 集団の一員としての基本行動

集団の一員として守るべき第一原則は、集団の決まりごとに従うということです。学則のように明文化されたものには、規則に反した場合の罰則規定があります。

たとえば、カンニングについて考えてみます。学ぶ者として、せいっぱい力を尽くすべき試験の場での不正行為は、学校側にとって見逃せることではありません。このような場合、退学あるいは除籍といった処分を受けることとなります。

また、不正行為が、新聞や雑誌などのマスメディアで取り上げられることもあります。入試の不正、暴行事件などが報道されることは、学校の名誉を大きく傷つけます。学校の名誉を傷つけるということは、その学校に在籍する学生ひとりひとりの名誉を傷つけるということでもあります。集団に属している以上、集団の一員としての自覚を忘れることはできません。

もうひとつ求められるのが、集団のマナーです。生徒手帳に書かれていなくても、互いに快適な学生生活を送るために必要な『思いやりの行動』がマナーです。たとえば、学ぶ場にふさわしくない服装や髪型をしないこと、授業の開始時と終了時にはきちんと挨拶すること、廊下を走らない、共有のものは大切に使うといった、基本的なマナーも多くあります。もう一度、振り返りましょう。



(2) 教職員との関係

企業人に比べれば限られた範囲ではあるものの、学生生活も、学校というひとつの社会であることに変わりはありません。気の合う友だち同士だけでは成り立たない関係も多くあります。年齢・経験・性別・環境・立場や役割の異なるたくさんの人たちと、積極的によい関係を築いていけるようにしたいものです。

最近、挨拶の習慣が少なくなったといわれます。家族にさえ、挨拶をする習慣のない人も多いそうです。先生や職員の方に、きちんとした挨拶ができていますか。

会社に入って、上司や先輩に挨拶さえできない新入社員が信頼されるでしょうか。それ以前に、企業に採用されるでしょうか。社会に出れば、敬語や正しい言葉遣いは必須条件です。学生のうちから、目上の方に対する正しい態度を身につけましょう。

CHECK & CHECK



- 先生方と廊下ですれちがったら、きちんと挨拶していますか
- 授業の開始時と終了時には、きちんとした挨拶ができていますか
- 職員室で先生方と話をするとき、正しい言葉遣いができていますか

「ありがとうございます」

「よろしくお願ひします」

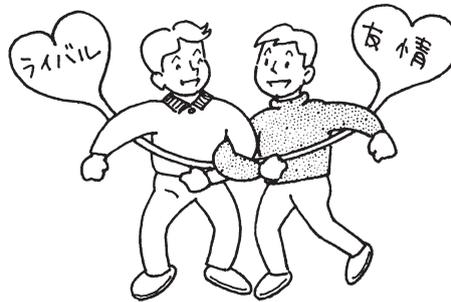
「お忙しいところ申しわけありません」

「すみません」

……………きちんとと言えますか

(3) 友人、先輩・後輩との関係

学生時代の親しい友人たちは、卒業後の社会人生活においても、とても大切な存在になってくれます。お互いよきライバルとして影響し合い、楽しい時間を共有し合うことは、貴重な経験となるでしょう。また、苦しいときにグチを言ったり、慰め合い、励まし合う相手がいないのはつらいものです。何でも親しく言い合え、ひとりの独立した人間同士として関わることのできる友人を持ちましょう。



同じ学校という組織で過ごした先輩や後輩とも、よい付き合いが続けられるようにしたいものです。先輩には、教えてもらう姿勢を失わず謙虚な気持ちを持ちましょう。卒業後も助けてもらえる機会が意外とあるものです。後輩には、威圧的な態度で接しないように心がけましょう。同じ人間として尊重し合い、何でも話し合える関係が築けたら素晴らしいことです。



4 社会の一員としての自覚

(1) 地球の一員としての責任

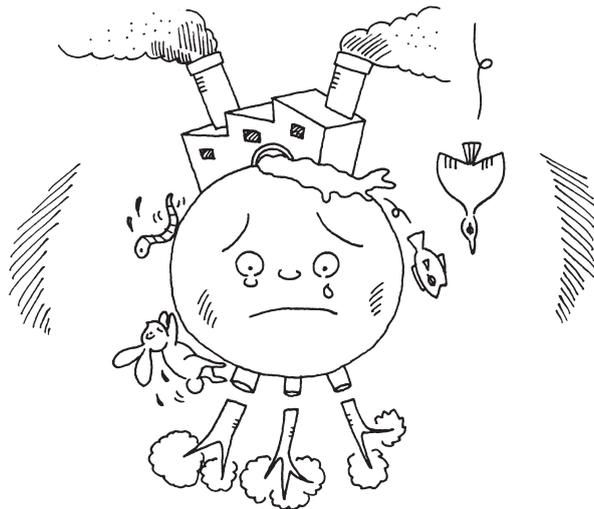
ヒトは社会的動物です。生まれながらにして、誰かと関わり合いをもちながら生きています。

自分の利益ばかりを追いかけていると、社会全体のことが見通せなくなってしまうものです。公害がその一例です。企業が、企業としての利益だけを優先しコスト削減をはかると、周囲の住民の生活への『やさしさ』を忘れてしまいがちです。たとえ多くの経費がかかったとしても、排水や煙、さまざまな^{はいきぶつ}廃棄物を確実に処分し、周辺住民の安全確保につとめることが、企業にとっての社会的責任といえます。

では、個人の場合はどうでしょうか。

タバコのポイ捨ては街を汚くします。ゴミを分別なく捨てていたら、地球中がゴミに埋もれてしまう日が来るでしょう。森林資源をないがしろにして^{ばっさい}伐採を続ければ、人間をはじめとする動物たちの癒しの場所^{いや}が失われることになります。

地球の温暖化などが問題となり、地球にやさしいことが商品コンセプトになっています。『自分ひとりがよければ～』ではなく、みんなが快適に生活できるように、ひとりひとりが小さな心がけをすべきなのです。



(2) 社会の一員として

社会の一員として生きる以上、社会のルールに従わなければなりません。その最大のルールが法律です。法律は、ヒトが社会の一員として生きるうえでの、基本的な道しるべともいえるものです。

わたくしたちは、『社会株式会社』という会社の一員であるともいえます。ですから、『社会株式会社』が今後も優良企業であり続けるために、ひとりひとりの社員(=国民)が努力しなければなりません。自分の所属する会社(社会株式会社)について正しく理解していますか。政治や経済、国際問題に関して、無関心を決め込むのはいかがなものでしょうか。20歳を過ぎると選挙権が与えられます。近ごろは、国政選挙でさえ3人に1人が棄権するようです。自分たちの会社に関心や向上心を失っては、『社会株式会社』は倒産へと向かってしまうかもしれません。

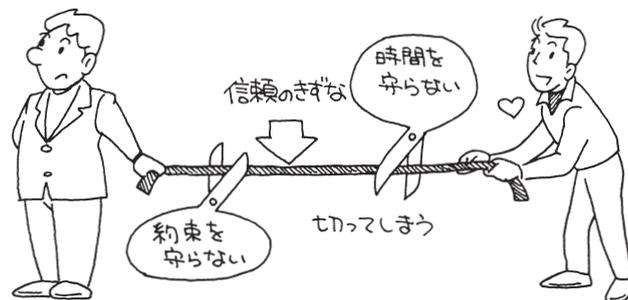
5 自己管理と自己成長

(1) 時間管理

時間を守ることは、社会人として最低限のルールです。集団生活の中では、決められた日時や時間を守らなければなりません。

たとえば、観光バスで旅行に出かけたとします。途中のドライブインで土産物を買っていて、ついついバスの発車時刻に遅れてしまうことがありますか。たったひとりがたった2分遅れるだけでも、バスは出発できません。『たかが2分〜』と思うかもしれませんが、2分でも、たとえ2時間であっても、約束を破ったことには変わりはないのです。

どんなに有能で、やさしく思いやりのある人であっても、時間にルーズな人は信頼されません。時間を守らないということは、相手の信頼を裏切ることです。相手の信頼を裏切っておいて、自分だけ信頼されようとするのは、虫がよすぎると思いませんか。



(2) 健康管理

将来の夢や希望をどれほど大きく描いたとしても、からだをこわしてしまっては実現ができません。何ごとにも積極的に取り組むことができるよう、からだと心の健康維持に努めましょう。

バランスの取れた食生活を心がけること、早寝早起きの規則正しい生活をする^{こと}、たくさんの好奇心を持ち続けることなどが、健康のツボです。

CHECK & CHECK

- 朝食をきちんと食べていますか
- 好き嫌いなく、栄養バランスの取れた食生活をしていますか
- 規則正しく三食食べていますか

- 夜遅くまでダラダラ起きて
いませんか

- 朝、余裕をもって起きて
いますか

- 正しい時間意識をもち、
けじめのある生活をしていますか



- 面倒くさい、やる気になれない
…後ろ向きになっていませんか
- 気持ちを切りかえ、けじめをつけて行動
していますか
- ストレスを解消するよい方法をもってい
ますか

(3) 自立への努力

生まれたばかりの赤ちゃんは、自分では何もできません。ひとりで立つ・歩くことはもちろん、食べる・排泄はいせつするといった生きるために基本的なことも、すべて親が手を差しのべなくてはなりません。赤ちゃんの自立はやがて、ひとりで歩く、ひとりで食べる、ひとりで着替えるといった形ですすんでいきます。

自立とは、生きるためのさまざまな行為をひとりでできるようになることから始まります。動物の中でも、自立にもっとも時間のかかるのが人間だといわれています。天敵が多い動物は、生まれてすぐに立ち上がります。立てないと、敵に襲われたときに逃げられないからです。

CHECK & CHECK

あなたは、身の回りのことが自分でできますか

- 朝、起こされずにひとりで起きていますか
- 自分の着るものは自分で洗濯ができますか
- 自分の靴は自分で磨いていますか
- ひとりで家にいるとき、簡単なものなら作って食べることができますか
- 食事の後片付けなど、自分からすすんでしていますか
- 自分の部屋は自分で掃除していますか
- お小遣いの中で、自分なりに計画的にやりくりしていますか

自立の第一歩は、自分のことが自分でできるようになることです。あたりまえのことですが、家族に頼って甘えてばかりいる人も多いのではないのでしょうか。家族に感謝し、自分でできることは自分でやるようにしましょう。

さらに、社会人となることは、精神的自立・経済的自立を目指すことでもあります。働くことによって収入を得ます。そのお金で自活することが第一の経済的自立です。もちろん、将来のために貯蓄したり、目標実現のために自己投資することも経済的自立のひとつです。経済的に自立することは、自分の意思で自分の道を切り拓いていく力をもつということでもあります。社会人になると束縛が多いと考える人もありますが、自分で決められる大きな自由を得ることなのです。自由というものには、それに見合う責任がともないます。あなたの人生、あなたの選択に、だれも責任を負ってはくれないのですから。

自分らしく自分の思うように生きるためには、まず自分の足元を固める必要があるのです。



(4) 目標をもつこと

あなたには将来の夢がありますか。こういう職業につきたい、こういう仕事をしたい、こうありたい、ああなりたいという希望は、頭の中にたくさんあるでしょう。未来の大きな夢を思い描くことはもちろん、毎日の生活の中に希望や目標をもつのはとても大切なことです。目標のない毎日ほど退屈で苦痛なものはありません。

人生の目標は、ひとりひとりのものの見方や価値観によって異なります。まず、自分自身をよく見つめることです。背伸びせず、ありのままの自分自身を素直に受け入れることから始めましょう。

『好きこそもののじょうずなれ』という言葉があります。何かに興味を持ち、好きで打ち込んで取り組んでいるうちに、いつの間にかその道に精通するものだというたとえです。あなたには好きなことがありますか。どんなことでもよいのです。好きなこと、得意なことが一つあるだけで自信が出てくるはずです。



(5) 目標達成のために

将来の目標が定まったら、その目標に向かって歩いていきます。ひと口に目標といっても、比較的短い期間で達成しやすいものもあるでしょうし、生涯かけて取り組む大きな目標もあるでしょう。その大きさや必要期間にかかわらず、目標を漠然とした夢に終わらせないために、自分から積極的に働きかけをしなければなりません。

自分の中にどんな可能性が隠れているかを考え、可能性を埋もれたままにしない努力が必要です。可能性を見つけ出し、開花させるには、チャレンジ精神をもつことが大切です。

CHECK & CHECK

- 生活の中に好奇心をたくさんもち、そのアンテナをひろげましょう
- 新しいことを恐れず果敢にトライしてみましょう
- 問題意識を高くし、なぜだろうと疑問を投げかけましょう
- 小さなことに感動し、興味をもてる新鮮な心を育てましょう

